平成 16 年 1 月 31 日

（財）倶進会の公開セミナーを聴講して

東京大学教授の八田達夫氏の『都市再生と経済回復』と題する講演を聴講した。項目を 1．都市と地方、2．東京はなぜ成長したか、3．集積の利益、4．集積の弊害　価格機構を用いた混雑の是正、5．混雑に対する様々な対策、6．景気対策に分けた判りやすく説明であった。自民党が都市で選挙に負け、都市再生に真剣に取り組み始めたことで判るように、都市における政治が非常に大切になってきた。一方、現在叫ばれている「構造改革」は何を意味しているか判らない。もっと明確にその意味を説明すべきである。演者は「構造改革」とは「生産性の低いところから高いところへ資本投資を移行することであると定義した。この点で、戦後のエネルギーの石炭から石油への移行、1960 年代の地方から都市への人口移動に伴う高度成長は成功例と言えよう。交通機関の発展が東京への一極集中を促進し、情報と人材の集中が東京の成長を促進した。1974 年ごろを境に、地方から都市への人口流入が止まり、海外との競争力の点から都市での利益を地方へ分配する手法は限界に達し、新しい手法が模索されている。これらの事情を都市別人口増加率の推移、年度別経済成長率の推移、年度別大都市への人口流入の推移、年度別大都市と地方との賃金格差の推移、年度別大都市と地方の行政投資格差などを用いて判り易く説明された。集積の弊害の緩和策についても、斬新な考えを披瀝された。景気対策についても都市と地方に分けて具体案を説明された。質疑応答では道路、電力、ガスの全国的規模での政策展開、コスト・ベネフィットの公正な評価などの重要性や都市のコンパクト化の長短、生物としての人間に及ぼす都市構造の影響などが議論された。
今後のわが国の政策立案に参考になる点が多くあったように思う。